

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年2月12日(2021.2.12)

【公開番号】特開2019-130192(P2019-130192A)

【公開日】令和1年8月8日(2019.8.8)

【年通号数】公開・登録公報2019-032

【出願番号】特願2018-16847(P2018-16847)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/032 (2006.01)

A 6 1 B 3/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 C

A 6 1 B 3/08

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月23日(2020.12.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

視標光束を出射する視標呈示手段を有し、前記視標呈示手段から出射された前記視標光束を被検眼に向けて投影する投光光学系を備え、前記被検眼の光学特性を自覚的に測定するための自覚式検眼装置であって、

前記投光光学系を制御することで、前記視標呈示手段によって前記被検眼に呈示可能な第1画角範囲を超えた第2画角範囲の視標を前記被検眼に投影させる制御手段と、

を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項2】

請求項1の自覚式検眼装置において、

前記制御手段は、駆動手段を駆動し、前記投光光学系の光路中において、第1光学部材を移動させることによって、前記第2画角範囲の前記視標を前記被検眼に投影させることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項3】

請求項2の自覚式検眼装置において、

前記制御手段は、前記駆動手段を駆動し、前記第1光学部材を前記光路から挿抜することによって、前記第2画角範囲の前記視標を前記被検眼に投影させることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項4】

請求項2又は3の自覚式検眼装置において、

前記制御手段は、前記駆動手段を駆動し、前記第1光学部材を前記光路の光軸方向に移動させることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項5】

請求項1～4のいずれかの自覚式検眼装置において、

前記視標呈示手段と、前記視標呈示手段に対して光軸方向にもっとも近接して配置される第2光学部材と、の間の光路における前記視標光束の主光線は、光軸と平行であることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項6】

請求項 1 ~ 5 のいずれかの自覚式検眼装置において、  
前記第 1 画角範囲の前記視標を投影する第 1 モードと、前記第 2 画角範囲の前記視標を  
投影する第 2 モードと、を設定する設定手段を備え、  
前記制御手段は、前記設定手段により設定されたモードに基づいて、前記駆動手段を駆  
動することを特徴とする自覚式検眼装置。